



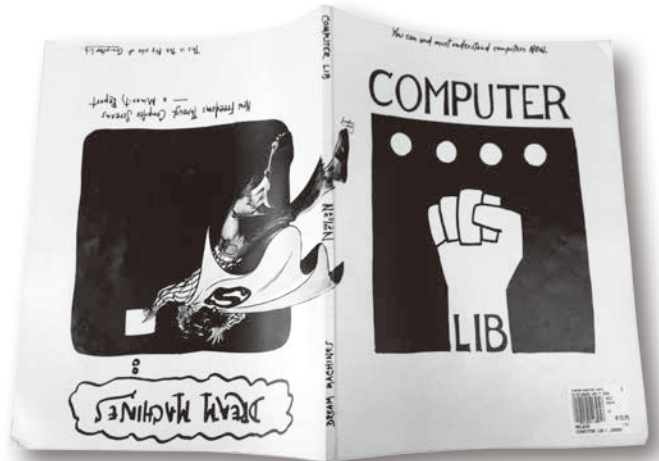
連載

ビブリオ・トーク —私のオススメ—

…角 康之 (公立ほこだて未来大学)

Computer Lib / Dream Machines

Ted Nelson 著
自費出版 (1974)



トーク感を出すために、以前、私がビブリオバトルでこの本を紹介したときのスピーチの書き起こしをもとに書いてみます。



はい、えーつとですね、僕は今日はね、本当にとっておきの本を紹介します。これ、こっから見ると "Dream Machines" って本なんです。けど、反対から見ると "Computer Lib" っていう表紙になる。こっちからも読める。真ん中辺でね…この辺かな、ひっくり返ってるんだよね。

書いたのは誰かっていうと Ted Nelson って人。Ted Nelson 知ってる人？ あー、あまりいないですね。World-Wide Web 知ってるでしょう？ Web ができるだいぶ前にハイパーテキストっていう概念を提案した人です。

表紙を見ると、ほら、"You can and must understand computers NOW." って書いてる。「コンピュータのこといつ理解するの？今でしょ！」っていう話です。あ、すべった。

で、この本、いつ出たかが大事なんです。1974年。

生まれてないよね？ 僕6歳。アップルもマイクロソフトもまだできてない。だから、パーソナルコンピュータという概念ができたかできないかの頃です。ウーマンリブって言葉聞くんじゃないですか。女性解放運動。その「リブ」です。コンピュータを使って我々に自由をっていうスローガンですよ。

当時はまだまだコンピュータっていうのは限られた人にしか使えなかったんだけど、みんながパーソナルコンピュータっていうのを持って、自分の意見を発信して、みんなが直接繋がりが合ったら世界は変わっちゃうぞっていうことを言ったんです。今まさにそういうこと起きてますよね。それを1974年に予言した。予言したって言うか、そういう世界での大事なツールになるであろうコンピュータっていうものをいつ理解するのか、今でしょ、といった本です。

それだけじゃちょっと本として寂しかったのかよく分かんないんですけど、もう少し夢も語りたかなと思ったんじゃないですか。ドリームマシーンズ。こっから見ると、なんかあやしい写真がいっぱいですけど、VRの先取りみたいなこととか、まあ色々書いてます。

この本のことは、「リテラリーマシン」っていう本の中で「伝説の本」って紹介されてたから存在は知ってたんですよ。どこで出会ったかという、えっと僕がATRに就職して少し経ってからの海外出張のときだから…96年くらいにスタンフォード大学のブックストアに行ったら、これが平積みされていたんです。13ドル95セント。元々は自費出版なんです。伝説の本で、知る人ぞ知る。僕はそういうなんて言うか歴史上の人物が好きな方なんです。

ミーハーなんで。

中を見るとすごいんです。手描きの絵やタイプライターで書いた文章が好き放題にレイアウトされていて、手作り感が最高なんです。この本を書く段階でこの人の頭の中はハイパーテキストだったわけですよ。非常に断片的なわけね。1つの文章をシュエツと書くというよりも、こういう風に思いついたことをもうバラバラバラバラ書いていってる。

でも、これもうなかなか手に入らないんですよ。Amazonで探しても、中古で5万いくらかになっちゃってる。ビブリアバトルの趣旨としては、ぜひ読んでください、買いに行きましょうって言いたいところなんだけど、そう言えないんですね、今日は。

(ビブリアバトルでのスピーチはここまで)

これだとあまりにも本の中身に関する情報が乏しいので、少し補足します。

Ted Nelson は60年代からハイパーメディアの概念を提唱し、Xanadu という未完のプロジェクトをライフワークにしています。理想のハイパーメディアを提唱しているうちに Web が世の中に出てしまい、本人はそれにはまったく満足していないようです。本書には、Xanadu のアイデアがたくさんのスケッチとともに書かれています。また、コンピュータグラフィクスや、コンピュータの教育への利用

に関する彼の考えが書かれています。70年代に思い描かれた「来る未来」は、今見てもワクワクします。

Ted Nelson の文章で入手しやすいものとしては、「リテラリーマシン—ハイパーテキスト原論」(アスキー出版, 1994年)があります。田中譲先生の特別寄稿も読み応えあります。これも絶版ですが、図書館や中古で見るとはできるでしょう。また、"The New Media Reader" (The MIT Press, 2003年) という本に本書が一部掲載されています。この本にはほかにも歴史的な論文が多く紹介されており、お勧めです。ですが、本書について言えば、やはり Ted Nelson の手作り感あふれる自由なレイアウトが再現されていないのが残念です。

追伸：本表紙の写真掲載の許可を得ようと Ted Nelson 氏本人にメールを書いたところ、数時間で許可の回答がありました。また本書が注文できるようになったそうです。ご興味のある方は <http://hyperland.com> を確認してください。

(2014年8月25日受付)

角 康之 (正会員) sumi@fun.ac.jp

1995年東大情報工学専攻修了(工学博士)。ATR、京大を経て未来大教授。実世界インタラクション、体験メディアの研究に従事。

